

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

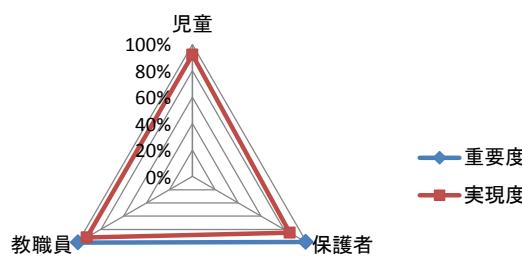
平成28年10月

平成28年度前期学校評価の結果を振り返って

保護者の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動に御理解・御協力いただき誠にありがとうございます。夏休みあけに御協力いただきました学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートの御協力ありがとうございました。

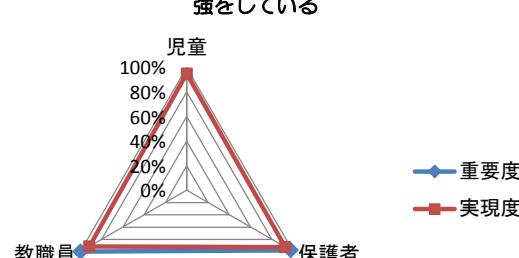
※グラフのポイントは、重要度「重要である」「やや重要である」、実現度「よくできている」「大体できている」を合わせたものです。

1. 子どもは学習内容が理解できている



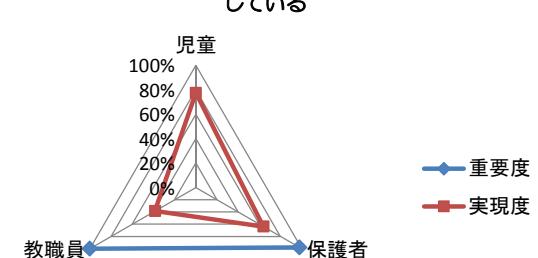
児童の回答では「よくできている」が一番高く、保護者・教職員は「大体できている」が一番高い。これは授業直後の達成感と、保護者や教職員のようにしばらく時間が経ってから回答する時間差であると思います。よって、「わかる授業」の実践とともに、学力の定着が課題であると思われます。

2. 子どもは家で必ず宿題や自主学習などの勉強をしている



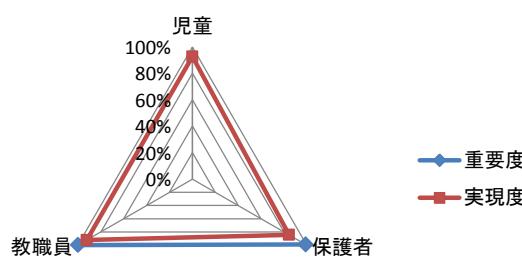
家庭学習について大切であるとされています。家庭学習は学習の定着を図るとともに、学習の習慣化にも大切な働きがあります。本校では自分自身で課題を設定する自主学習にも力をいれています。校内に各学年の見本掲示がありますので、参考にして下さい。

3. 子どもはまわりの人にすすんでいさつをしている



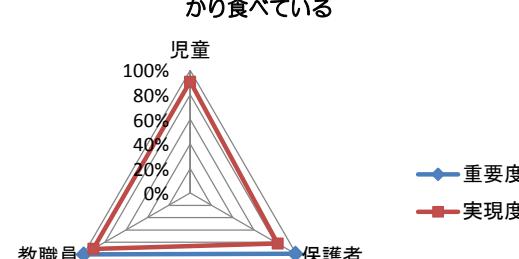
夏休みあけのいさつ運動でいさつの声かけがあつてから、児童は声をかけられるといさつができます。たくさんの人と関わり生活していることを理解させ、あたたかいふれあいを大切にし、自らいさつをしたくなるような環境づくりを進めていきたいと思います。

4. 子どもは約束やきまりをまもっている



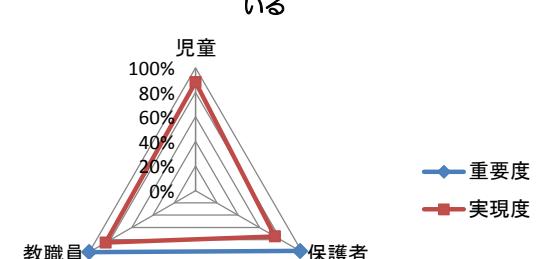
きまりや約束事を守る姿勢は、児童の内面の安定とともに学習姿勢の向上、自己実現への行動に結びつきます。自分を大切にすること、仲間を大切にすることの指導を継続させていきたいと思います。

5. 子どもは早寝・早起きをし、ごはんをしっかり食べている



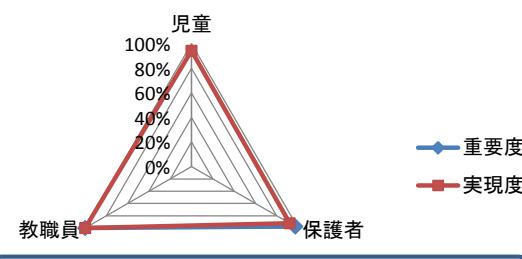
夏休みあけに生活リズムを整えるためで「朝食調べ」をしました。より具体的な質問から、「就寝時刻が遅くなってしまう」子どもが気になりました。からだの成長著しいときです。早寝を心がけるとともに、質のいい睡眠をとれるようにしていきましょう。

6. 子どもはスポーツや外遊びで体を動かしている



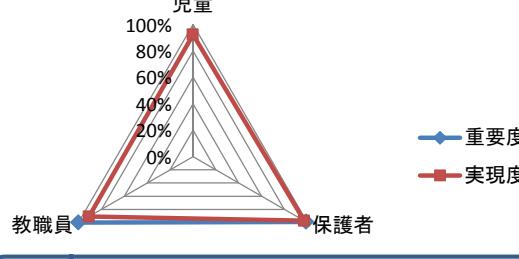
児童は休み時間などに運動場で元気に過ごす姿が多く見られます。しかしながら、限られたスペースと時間では十分に満たされているとは言えません。また、保護者の回答からはゲームなどによる外遊びの減少が考えられます。朝マラソン・朝なわとびを通して体を動かす機会を充実させたいと思います。

7. 子どもは友だちと仲良く遊んだり学習したりしている



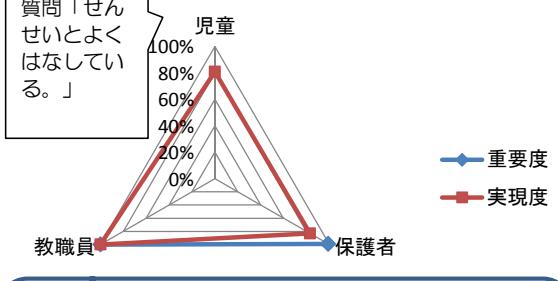
児童・保護者・教職員とも概ね仲良く遊んだり学習したりできていると回答しています。学校が子どもにとって安心して自分の力を発揮できる場所になるよう、取り組みを進めていきたいと思います。

8. 子どもは家人の人とよく会話している



児童は実現度92%と回答、保護者は97%です。多忙な日常の中で、子どもとともに過ごす時間を大切にされていることと思います。また、保護者97%の内訳は「よくできている47%、大体できている50%」となっており、子どもの様子をより理解していきたい表れと思われます。

9. 家庭と学校は連携している



児童は「よくできている」という回答は37%でした。「よくできている」以外の回答は、「もっと話したい。もっと聞いてほしい。」という願いとも受け取れます。会話やそれ以外の方法を含め、十分な児童理解に努めたいと思います。

重要度の集計結果から

（保護者・教職員）

すべての項目について高い関心があることがわかります。また、ここでとりあげたアンケート項目は学校として大切にしているところですが、重要度の特に高いところは共に力を入れて取り組みを進めてほしい「願い」と受け取れます。これらの点について、地域・保護者の方の思いを共に子どもたちへの指導に活かしていきたいと思います。

実現度の集計結果から

児童・保護者・教職員の3者の実現度から、課題となる項目（いさつ、早寝早起き朝ごはん）がみられました。

しかし、実現度が低い項目は「できていない」ではなく、どのようなことが背景にあり、どのような状況であるのかを把握することが最も大切であると思います。子どもたちがすすんでより望ましい行動がとれるように環境を整えていきたいと思います。

重要度と実現度の結果から

【保護者・教職員】のアンケートより

「重要度が高く、実現度も高い項目」は満足度が高いといえます。「重要度が高く、実現度が低い項目」は満足度が低く、「大切とは思っているが、実現は十分ではない」と考えられ、改善が見込めるところとなります。一方で、この「重要度と実現度の差」は、より必要と感じている強さの表れであり、期待の込められているところとなります。

実現度を高めていき、満足のある生活が送れるように取り組みを充実させ、子どもたちの姿の変容をめざします。

児童・保護者・教職員の比較から

児童のアンケートは実現度のみの回答となっていますが、3者で合わせてみた場合、「いさつ」は共通の課題、「約束」「運動」の項目では児童よりも他者の回答が実現度が低くなっています。子どもたちの様子をよりたくさんの大人の目で見守りながら、応援していくように声かけをしていきましょう。

【自由記述欄より】

（いただきました全ての御意見は教職員全員で共有しております。）

「安全面」「家庭学習」「ホームページの更新」「自主学習の内容」「子どもたちの行動」など、御意見や御指摘を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしていきます。

学校運営協議会理事会より

学校教育目標にある「夢」の実現に向け、子どもたちがより強く「自分はこうなりたい！こうありたい！」と思えるような目標が具体的に持てるような取組に協力していきたい。「夢」の実現を支える学力向上についての取組を充実させていく。また課題である「いさつ」については、気持ちのよいいさつがあふれるように学校・家庭・地域が協力して声かけをしていきたい。